

# 令和元年 労働災害発生状況の概要【製造業】

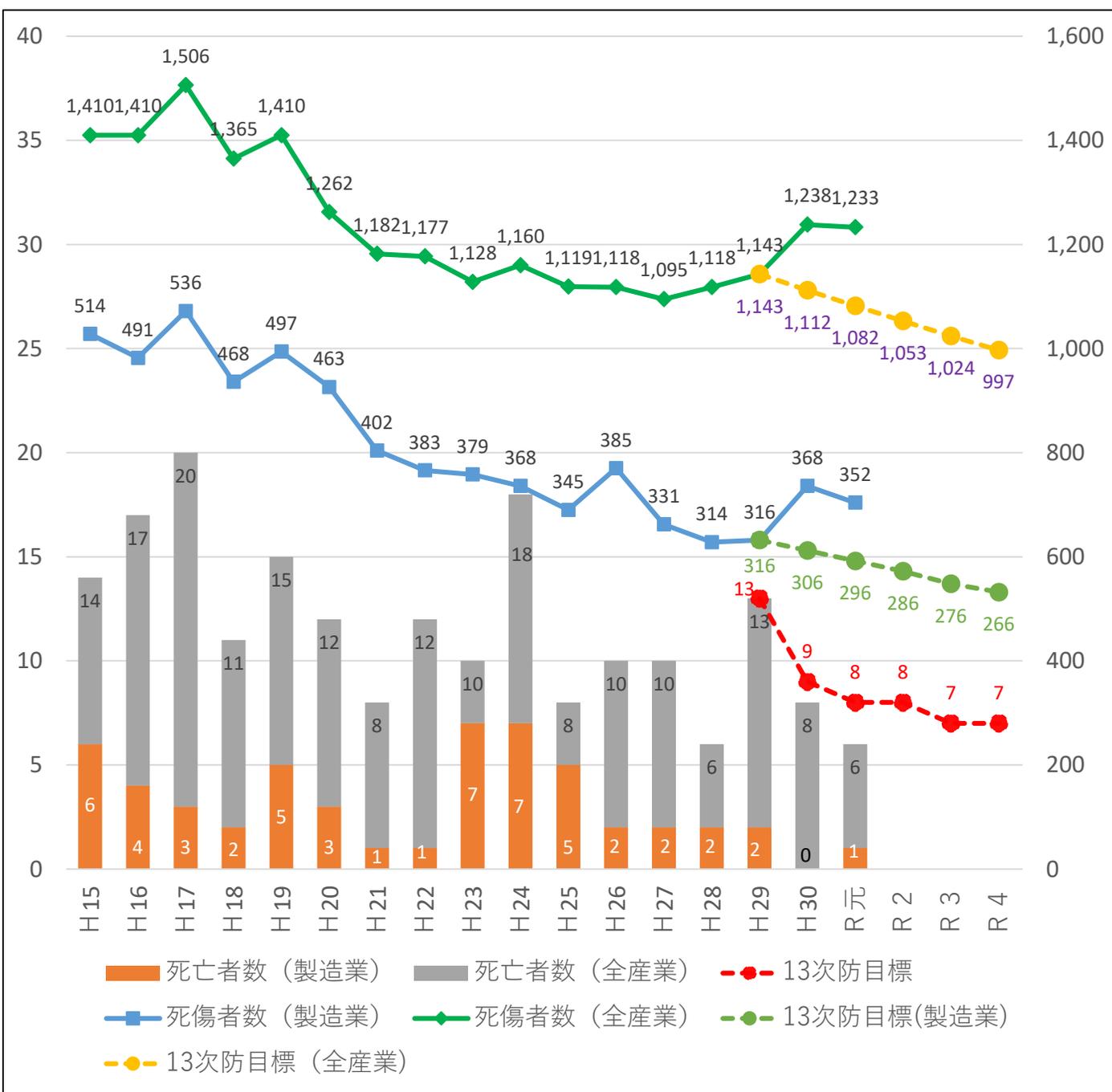
## 1 死亡災害発生状況（図1）

平成30年は死亡者0人であったが、令和元年は1件の死亡災害が食料品製造業で発生した。

## 2 死傷災害発生状況（図1）

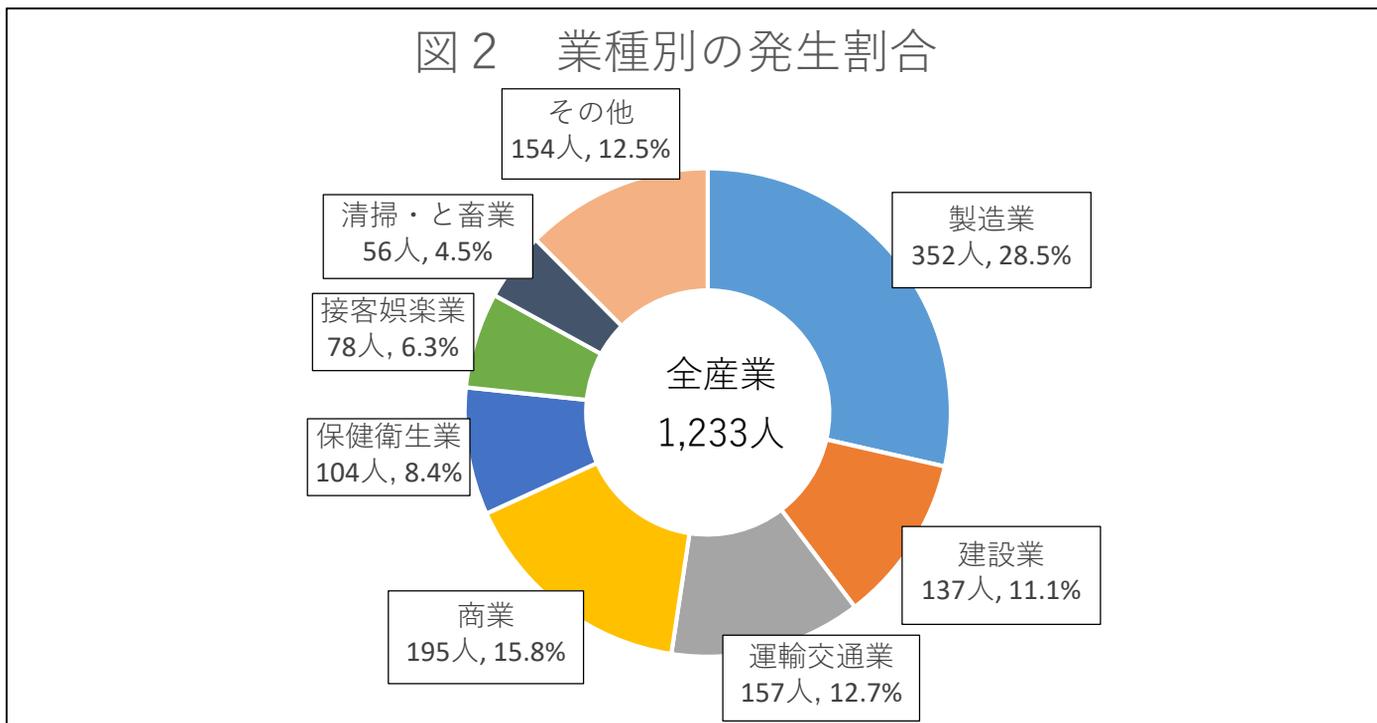
製造業の死傷者数（休業4日以上）は352人で、平成30年の368人に比べ16人（4.3%）減少した。

しかし、第13次労働災害防止計画の令和元年の目標値（296人）と比べると+56人（+18.9%）で、目標達成に向け、労働災害防止に係る更なる取組が必要である。



### 3 業種別の災害発生状況（図2）

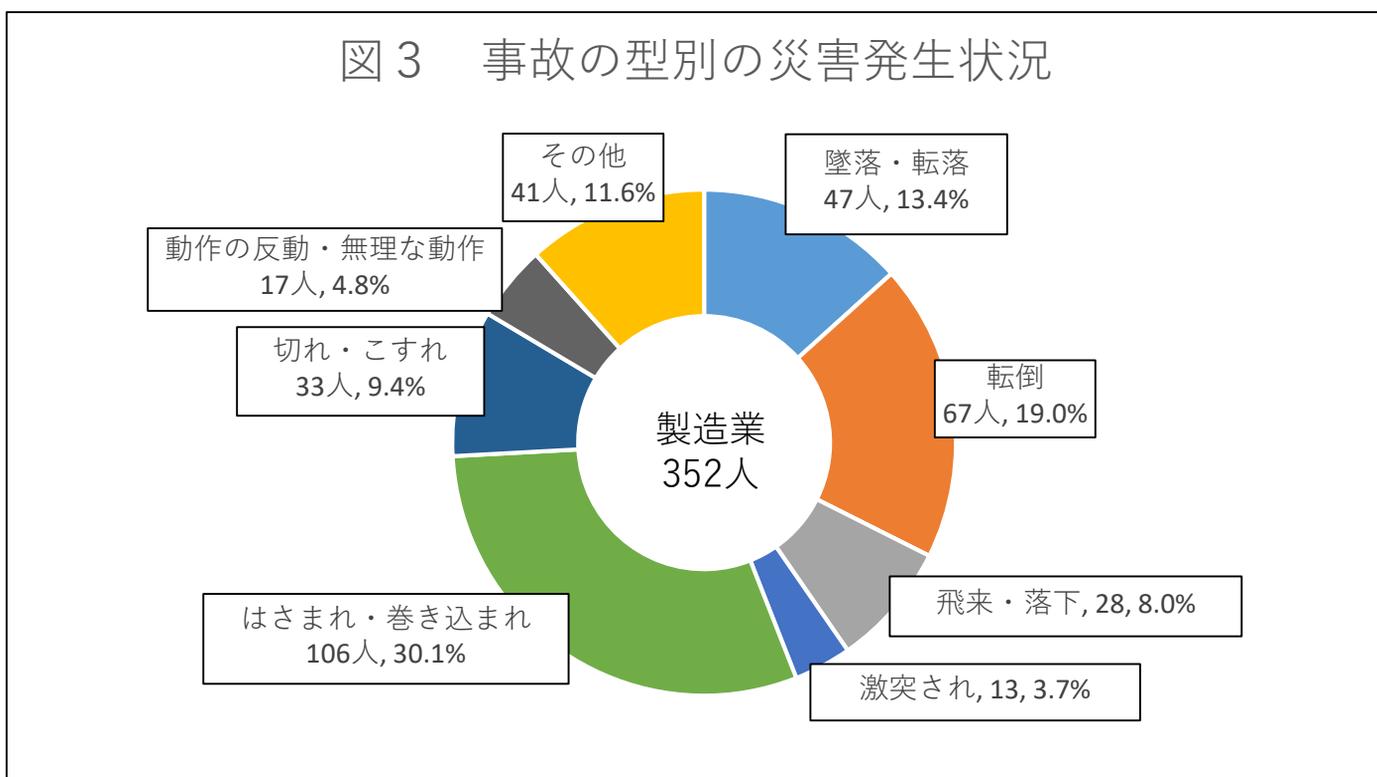
製造業が最も多く352人（28.5%）を占めている。



### 4 事故の型別の災害発生状況（図3、4）

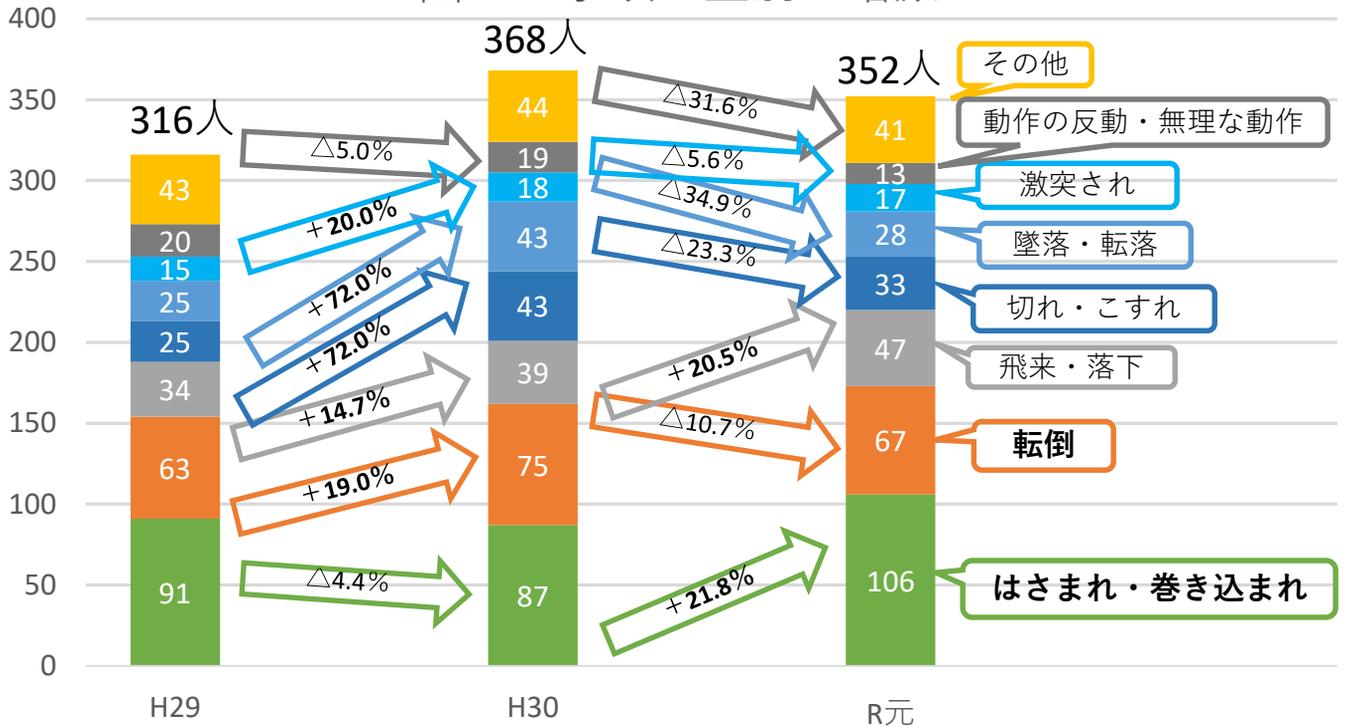
「はさまれ・巻き込まれ」が最も多く、全体の30.1%（106人）を占めている。

次いで、「転倒」67人（19.0%）、「墜落・転落」47人（13.4%）となっている。



平成30年と比較すると、「転倒」- 8人 (-10.7%)、「切れ・こすれ」-10人 (-23.3%)、「墜落・転落」-15人 (-34.9%)と大幅に減少しているが、「はさまれ・巻き込まれ」+19人 (+21.8%)が大幅に増加している。

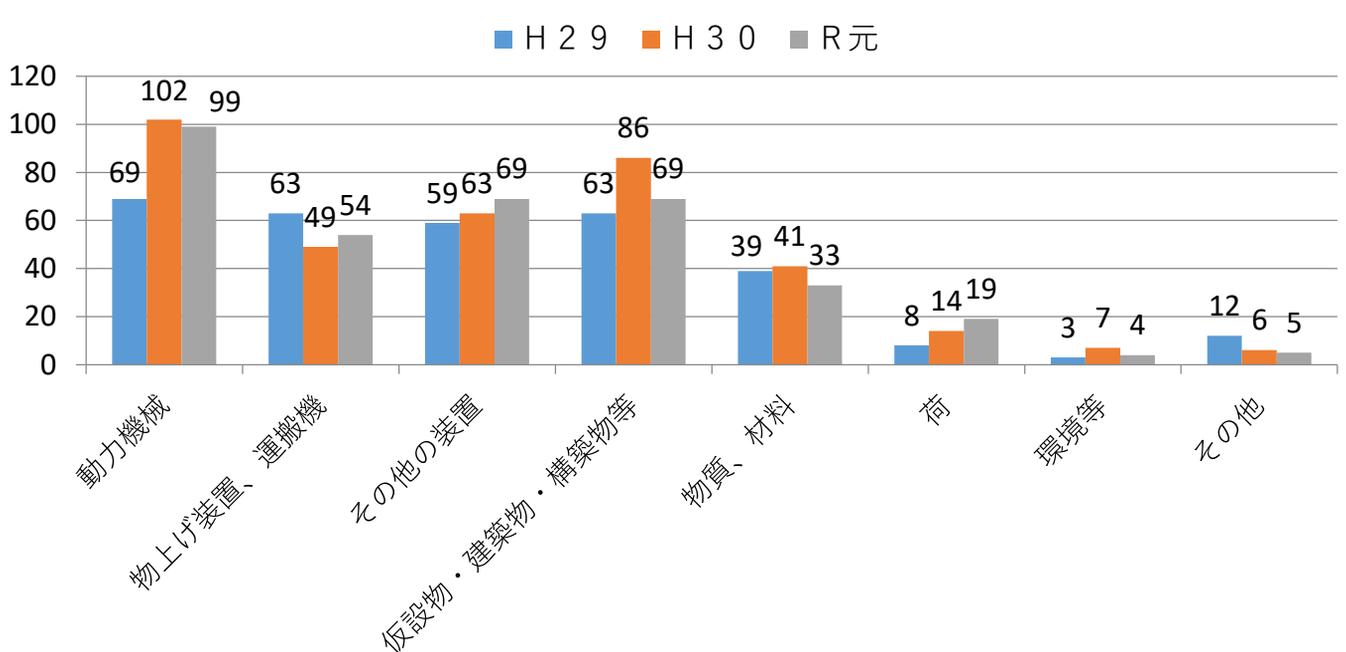
図4 事故の型別の増減



## 5 起因物別の災害発生状況 (図5)

「動力機械」(99人、28.1%)による労働災害が例年約3割を占めている。

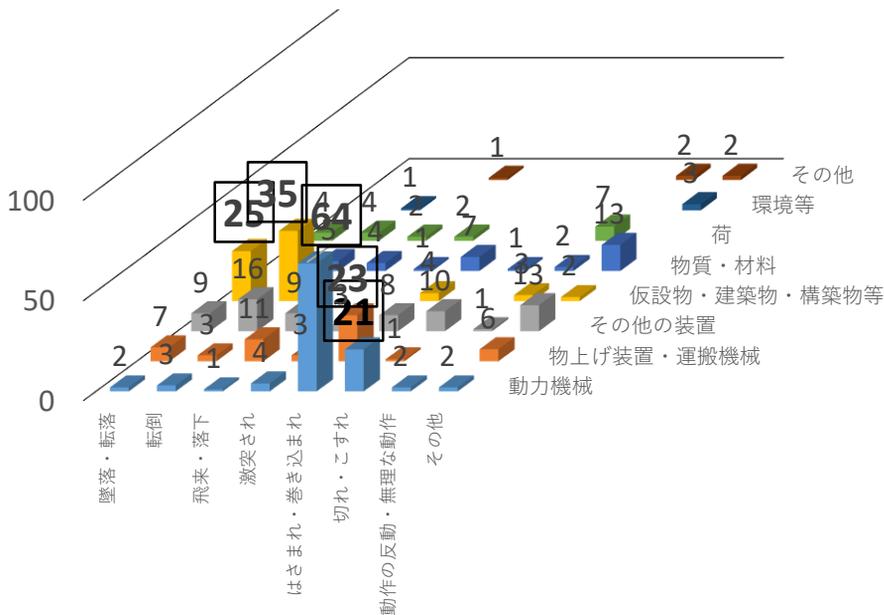
図5 起因物別の災害発生状況



## 6 事故の型別・起因物別の災害発生状況（図6）

「動力機械によるはさまれ・巻き込まれ」が64人（18.2%）と最も多く、次いで「仮設物・建築物・構築物等での転倒」35人（9.9%）となっている。動力機械による「はさまれ・巻き込まれ」と「切れ・こすれ」を合計すると85人（24.1%）となっている。

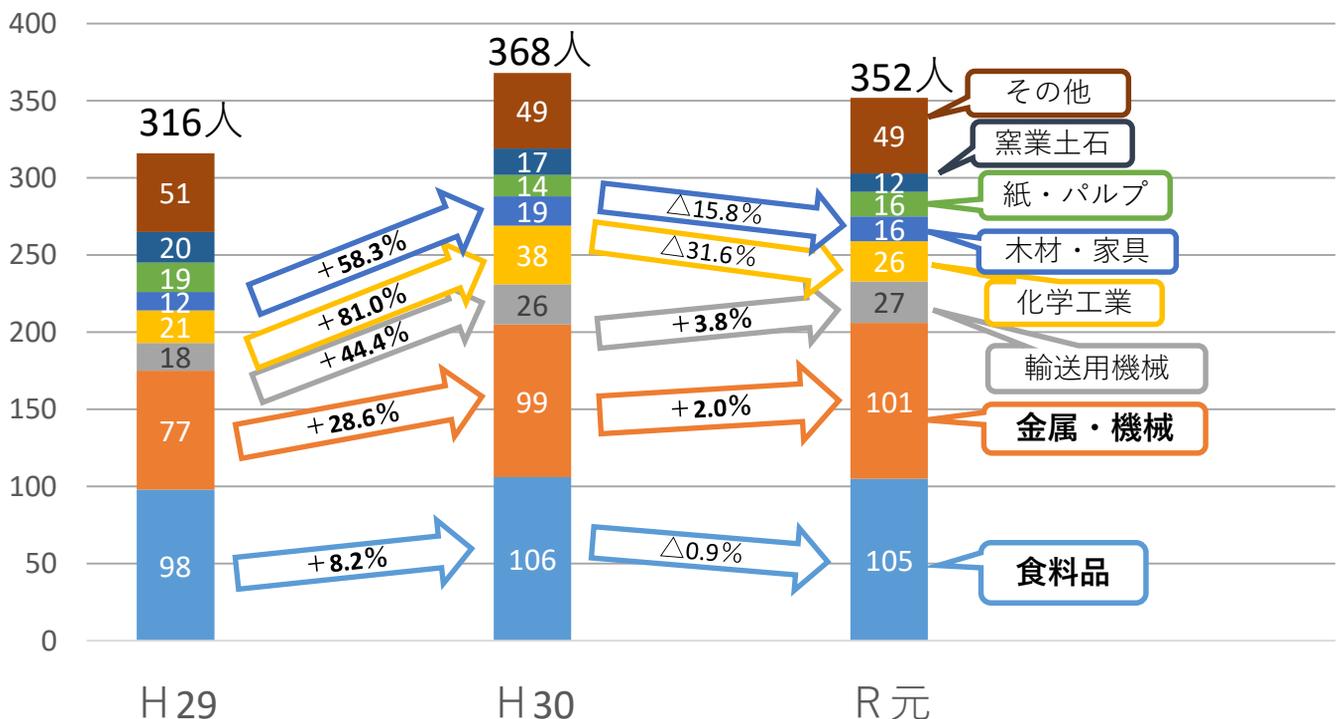
図6 事故の型別・起因物別の災害発生状況



## 7 業種別（中分類）の災害発生状況（図7）

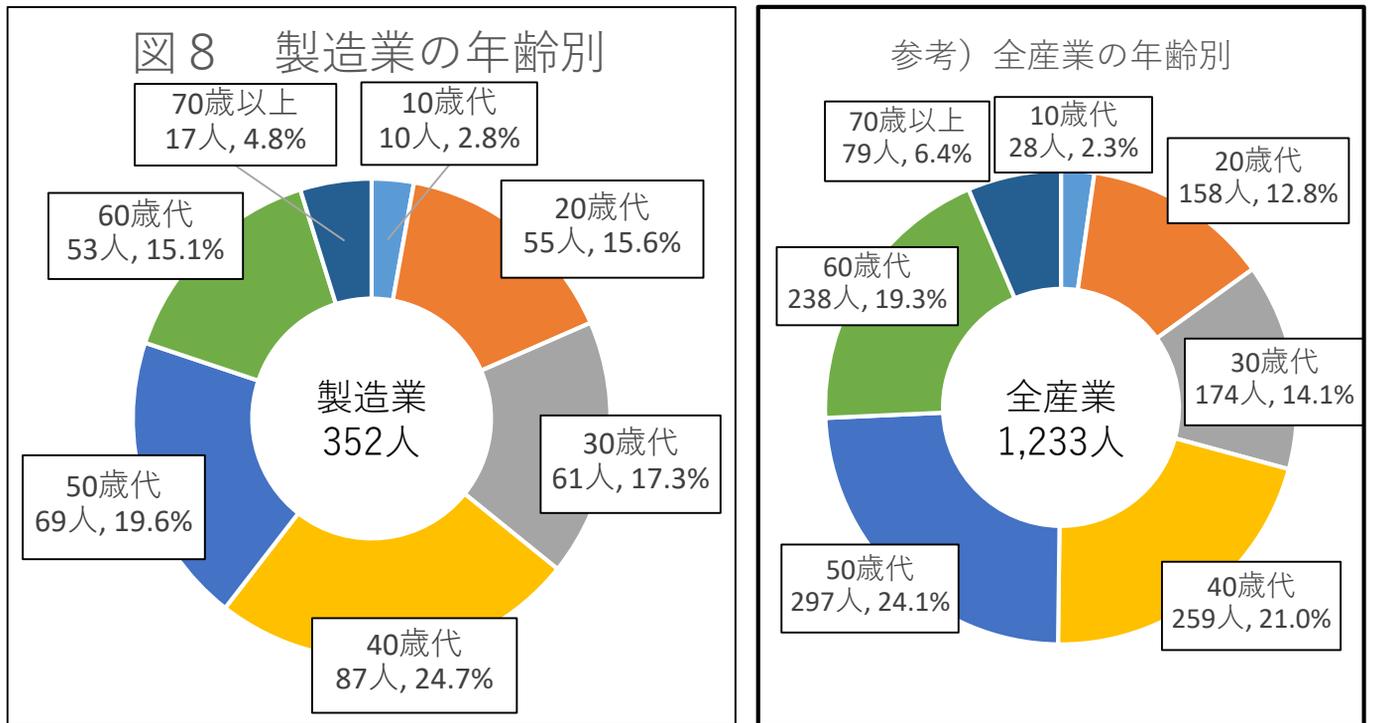
食料品製造業105人（29.8%）が最も多く、食料品、金属製品及び一般機械の3つを合計すると206人で全体の約6割を占めている。

図7 業種別の災害発生状況



## 8 年齢別の災害発生状況（図8）

全産業（平均）と比べると、50歳以上の高年齢労働者の割合が低く、若年層が多くなっている。

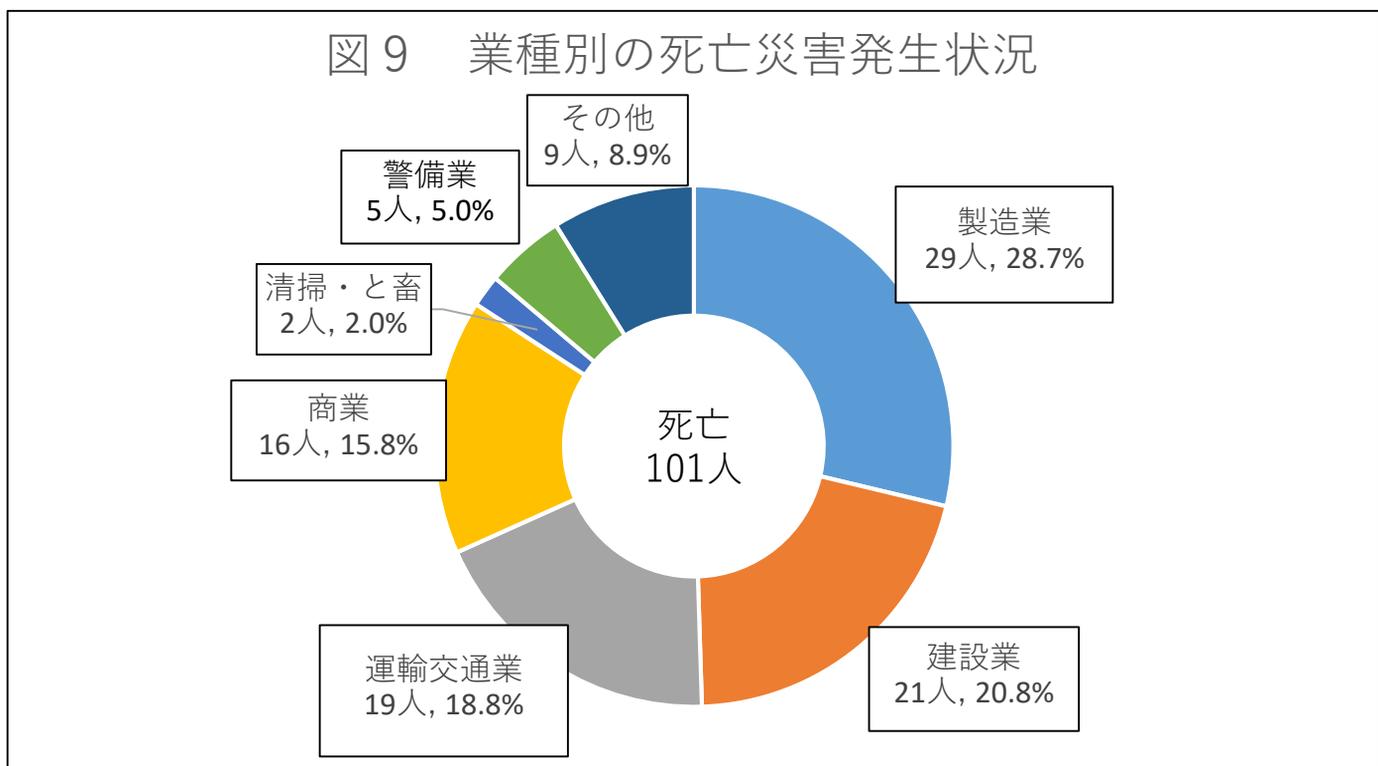


## 9 過去10年間（平成22年から令和元年）の死亡災害発生状況

死亡者数は、過去10年間で101人。

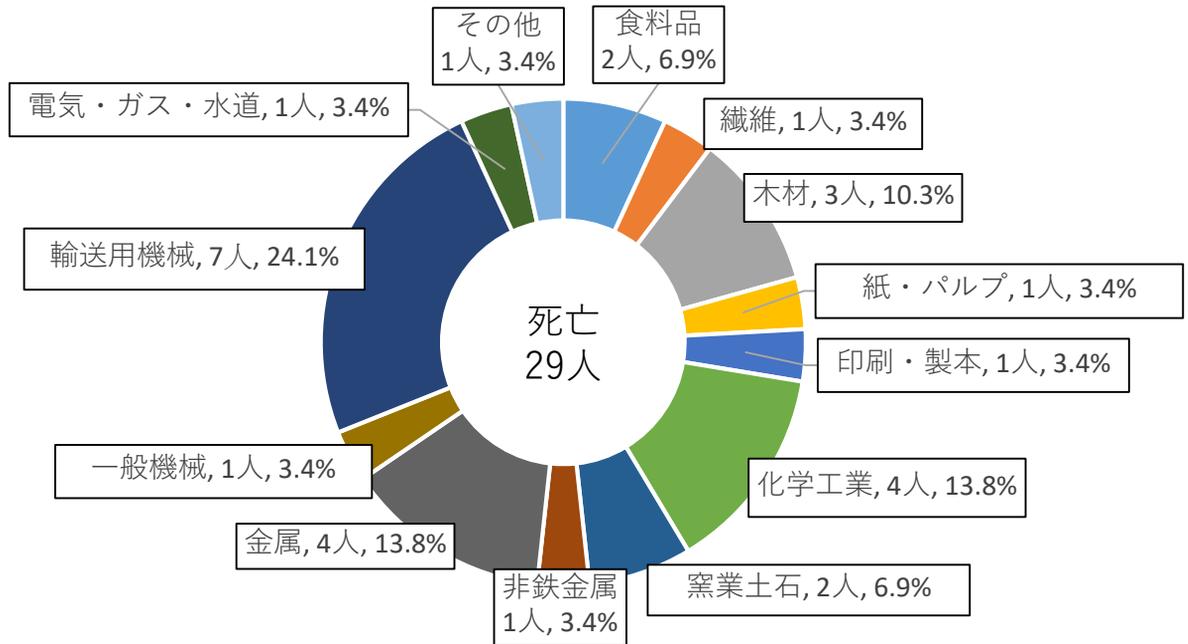
### ① 業種別の死亡災害発生状況（図9）

製造業が29人（28.7%）と最も多く、次いで建設業の21人（20.8%）、運輸交通業の19人（18.8%）の順となっている。



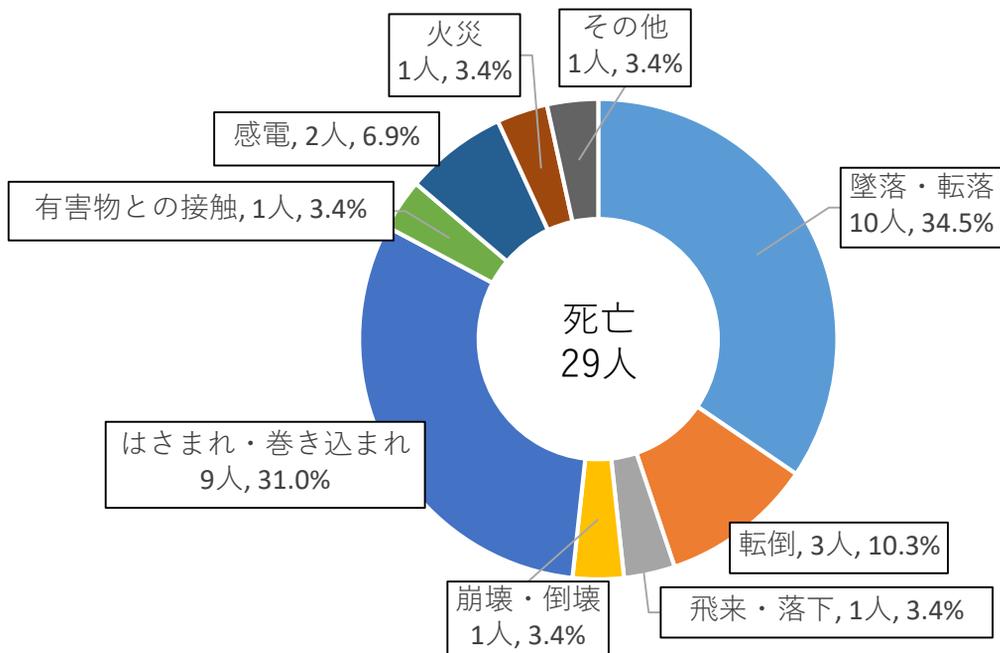
- ② 業種別（中分類）の死亡災害発生状況（図10）  
 製造業29人のうち、輸送用機械等製造業（造船業）が7人（24.1%）と最も多く、次いで化学工業及び金属製品製造業がそれぞれ4人（13.8%）の順となっている。

図10 業種別（中分類）の死亡災害発生状況



- ③ 事故の型別の死亡災害発生状況（図11）  
 「墜落・転落」が10人（34.5%）と最も多く、次いで「はさまれ・巻き込まれ」9人（31.0%）となっており、この2つの事故の型で全体の65.5%を占めている。

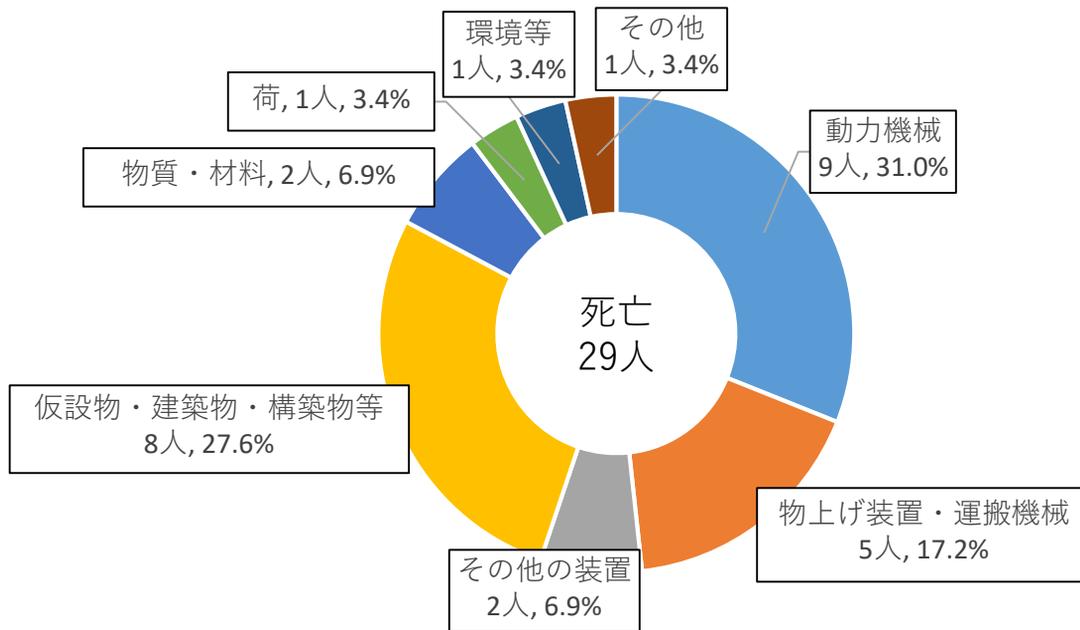
図11 事故の型別の死亡災害発生状況



④ 起因物別の死亡災害発生状況（図12）

「動力機械」が9人（31.0%）と最も多く、次いで「仮設物・建築物・構築物等」が8人（27.6%）、「物上げ装置・運搬機械」5人（17.2%）の順となっている。

図12 起因物別の死亡災害発生状況



⑤ 事故の型別・起因物別の死亡災害発生状況（図13）

「動力機械によるはさまれ・巻き込まれ」が8人（27.6%）と最も多く、次いで「仮設物・建築物・構築物等からの墜落・転落」が7人（24.19%）の順となっている。

図13 事故の型別・起因物別の死亡災害発生状況

